

たすけ書道教室 二〇二六年一月 (令和八)

墨のつけ方



筆に含んだ墨の量が少ないと、一文字書き切る前に墨が不足してしまうことがあります。文字の途中で、乱れた穂先を硯に戻して整えるのはかまいませんが、墨を途中で足すことは避けたほうが好ましいです。

墨は、いったん筆の根元まで（根元までおろして、ない場合はおろしているところまで）たぶり含ませましょう。そのままでは墨が多すぎるので、穂先のほうだけ墨を硯の陸（おぼ）で落とすから書きます。そうすれば、筆の根元から徐々に墨がおりてきて、二文字以上墨を足さずに書けるようになります。筆の流れが重要な行書・草書は特に、何文字が続いても書いみましよう。

作品紹介

二年
なみ

「な」がもう少し大きいと尚良い。「な」の3・4画目のつばわりや筆がよい上手

望雲之情

名前のためのスペースが大きくなりすぎたのが惜しいとて、も丁寧で字形も良い

小中学生
今月の課題

こきの
小二

友人
小三

歩む
小四

雪明
小五(1)

月真面
小五(2)

希望
小六

古今和歌集
中学生